No.1201
2020年
4月号

グリーン四国

令和2年度
四国森林管理局事業概要

【詳細は2頁】

西熊林道から西熊山を望む

目　次

・令和２年度四国森林管理局の重点施策を公表 ……………………………… 2
・各署で治山・林道コンクール表彰を行う ……………………………… 4
・各署等のたより ……………………………………………………………… 5
・新任者略歴紹介 ……………………………………………………………… 8

四国山の日

四国森林管理局
高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ 088－821－2052
ＦＡＸ 088－821－4834
Ｈ　Ｐ http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

令和2年度四国森林管理局の重点施策を公表
～四国の山を強くする6つの施策～
〈企画調整課〉

4月20日、令和2年度の四国森林管理局重点施策を公表しました。

四国森林管理局は、その組織・人材・資源を最大限に活用し、地域の皆様と連携し、伐採・造林等のトータルコストの削減、シカ等による獣害対策の推進、市町村への技術的支援、災害に強い国土づくり、国民に親しまれる森林資源の活用などの取組を積極的に進め、地域の林業成長産業化に貢献してまいります。

重点施策の概要は、次のとおりです。

【施策1】造林の低コスト化

木材を伐採・搬出し、再度、山造りを行うには、伐採跡地に残った残材の整理、苗木の植付、下刈などの労力を長期間要します。これら造林作業の低コスト化は喫緊の課題であり、以下の施策に取り組みます。

○植付の通年作業を可能とするコンテナ苗の導入を拡大します。

○夏季に実施していた下刈作業について、労働負担軽減のため、期間を冬季まで延長した冬下刈の導入を推進します。

○伐採・造林コストの2～3割削減を目指し、伐採・搬出から植付までの作業を一括発注する一貫作業及びこれらの作業を複数年（3年以内）で発注する複数年契約を推進します。

○これらの造林の低コスト化に資する各種取組を一箇所のフィールドに集めた集約化試験団地を2箇所設定します。

○多大な労力を要する森林資源調査について、民間測量会社と連携し、ドローン等を活用した調査方法の精度向上に取り組みます。

○シカ等の捕獲のために設置しているワナの巡回作業の負担軽減に向け、ドローンや無線通信の活用を推進します。

【施策2】木材生産の収益性の向上

造林とあわせて、木材の伐採・搬出にかかる作業の効率化や搬出された木材の有利な販売が課題であり、以下の施策に取り組みます。

○列状間伐や効率的な作業システムの導入を推進するとともに、林業事業体等の生産性向上等を図るため、現地検討会を開催します。

○搬出コストの縮減と大ロットでの販売を目的に、伐採現場に近い場所に民有林材も集積する連携土場を整備し、国産材の安定供給を推進します。

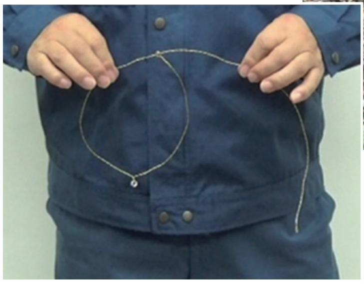
○製材品に求められる強度性能に対応するため、丸太段階で強度の測定表示を行い、信頼性の高い丸太の販売に取り組みます。

【施策3】獣害対策の推進

○シカ等の野生鳥獣による森林被害対策として、地域関係者、研究機関等と連携を図り、石鎚山系等での被害状況の調査、ワナ等による捕獲体制の整備を推進します。

○四国森林管理局において考案したシカ用囲いワナ「こじゃんと1号・2号」の民有林への普及を推進します。

○ノウサギによる森林被害が増加していることから、防護柵や忌避剤による被害防止対策、小型箱ワナやくくりワナによる捕獲技術の向上に取り組みます。



【施策４】市町村への技術的支援

○市町村林業担当者実務研修を引き続き実施します。また、昨年作成した「森林・林業の課題の解決を応援します（市町村への支援ツール）」を活用し、市町村での課題解決に向けて取り組みます。

○四国４県や市町村等が研修会を開催する際、講師派遣や国有林を活用した現地検討会等を行います。

○森林・林業関係の教育機関とも連携し、インターンシップの受入や講師派遣、現地実習等に取り組みます。

【施策５】災害に強い国土づくり

○地域の安全・安心を守るため、山地災害箇所の早期復旧や災害発生時の各自治体との災害時連携協定に基づく迅速な調査、被災状況データの提供に取り組みます。

○災害時において、地域住民のライフラインとしての利用にも資する林道や林業専用道の整備強化に取り組みます。

○頻発する豪雨・地震災害等への対応を迅速に行えるよう、各県の担当者等とも連携した「四国山地災害初動対応強化会議（仮称）」を設置し、関係者間の連携強化を図ります。

【施策６】国民に親しまれる森林資源の活用

○自然体験型観光の取組等を後押しするため、千本山風景林等において、遊歩道、多言語看板等の整備を行います。

○重要な地場産業である土佐備長炭（白炭）の原料であるウバメガシの資源確保のため、地元自治体等と連携し、原木生産技術の確立に向け、「ウバメガシ資源確保プロジェクト」を推進します。

○「祖谷のかずら橋」（徳島県三好市）の資材であるシラクチカズラの確保に向け、苗木の植栽、「シラクチカズラセミナー」を開催するとともに、かずら橋への資材の供給を行います。

○生物多様性の保全等の観点から、「四国山地緑の回廊」において、昨年度隣接する安芸市等と連携協定を締結しました。緑の回廊の設定方針に基づき、野生生物の移動等にとって良好な状態になるよう維持・整備を適切に行います。

また、主な事業量は次のとおりです。

令和２年度　四国森林管理局県別主要事業量

		徳島県	香川県	愛媛県	高知県	計
木材供給（千㎥）	製品販売	6	4	44	121	175
	立木販売	14	8	31	153	205
森林整備（ha）	間　伐	66	68	566	1,784	2,483
	主　伐	28	40	78	435	581
	植　付	3	11	30	227	271
林道整備（m）	新　設	911	355	240	1,272	2,778
	改　良	31	1,150	1,846	25,401	28,428
治山事業（億円）	国有林直轄治山	2.1（4箇所）	1.3（4箇所）	2.0（4箇所）	14（26箇所）	19.4（38箇所）
	民有林直轄治山	7.2（11箇所）	－	－	10.8（9箇所）	18（20箇所）

注）林道整備の新設・改良は10トン積トラックが通行可能な林業専用道等の事業量。
注）治山事業には災害復旧事業を含む 。
注）各事業量は四捨五入により計が一致しない場合がある。

各署で治山・林道コンクール表彰を行う

◇優良工事施工業者・技術者・監督職員を表彰

〈治山課・総務課〉

このコンクールは、四国森林管理局発注の治山・林道工事で、事業効果の発現が顕著であり、工事内容が良好で他の模範に当たると判断される優良工事を表彰するものです。このたび、平成30年度に施工した治山工事5社、林道工事3社に対して局長表彰を行いました。

また、局長表彰に併せて四国森林管理局から、特に優秀な工事として、林野庁へ推薦した2社の工事が、農林水産大臣賞（治山工事1社）、林野庁長官賞（林道工事2社）を受賞されたことから、当該工事の担当技術者及び監督職員に対して、局長表彰を行いました。受賞者は次のとおりです。

なお、表彰式については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、式典は行わず、各森林管理署長から事業体の皆様に賞状授与させていただきました。

◆農林水産大臣賞

○大段続山（2078）復旧治山工事（翌債）
《安芸森林管理署発注》
湯浅建設株式会社
代表取締役社長　湯浅　雅喜

◆林野庁長官賞

○芳川林道改良工事
《四万十森林管理署発注》
株式会社井原組
代表取締役　井原　貴仁

○北平林道災害復旧工事（明許）
《安芸森林管理署発注》
湯浅建設株式会社
代表取締役社長　湯浅　雅喜

◆四国森林管理局長賞

【工事表彰】

○樫尾（1）復旧治山工事（明許）
《徳島森林管理署発注》
有限会社上西組
代表取締役　上西　光男

○祖谷川地区　樫尾（上）地すべり防止工事（国債）
《徳島森林管理署発注》
株式会社山全
代表取締役　牛尾　正治

○篠山（3073）復旧治山工事（明許）
《愛媛森林管理署発注》
協業組合テスク
代表理事　池本　成志

○一ノ谷山（80）復旧治山工事（翌債）
《嶺北森林管理署発注》
明治建設有限会社
代表取締役　川﨑　篤志

○野川山（1039）災害関連緊急工事外（明許）
《安芸森林管理署発注》
有限会社金本組
代表取締役　金本　太

○落合橋仮設橋設置工事（明許）
《四万十森林管理署発注》
双葉・大川経常建設共同企業体
代表者　鬼頭　愼一

○奥藤林道災害復旧工事（翌債）
《四万十森林管理署発注》
協業組合テスク
代表理事　池本　成志

○奈半利川地区平鍋資材運搬路新設工事
有限会社金本組
代表取締役　金本　太

【技術者表彰】

○大段続山（2078）復旧治山工事（翌債）
現場代理人　竹内　奨
主任技術者　枦山　憲久
（湯浅建設株式会社）
監督職員　浜田　淳史
（安芸森林管理署）

○芳川林道改良工事
現場代理人
主任技術者　小野川　圭亮
（株式会社井原組）
監督職員　相田　弘道
（四万十森林管理署）

○北平林道災害復旧工事（明許）
現場代理人　小松　宇宙
主任技術者　山﨑　和幸
（湯浅建設株式会社）
監督職員　岡本　英典
（安芸森林管理署）

安芸森林管理署での表彰式

林野庁長官賞　芳川林道改良工事

農林水産大臣賞　大段続山（2078）復旧治山工事（翌債）

林野庁長官賞　北平林道災害復旧工事（翌債）

各署等のたより

インターンシップを実施

〈四万十森林管理署〉

四万十森林管理署では、２月25日から28日の４日間、令和元年度春期のインターンシップ（就業体験実習）として兵庫県立大学大学院の学生１名を受け入れました。

４日間という短期間だったため、現地での見学・実習を主に体験していただきました。

初日は、当署で行われている早生樹のコウヨウザン三世代プロジェクトの試験地と備長炭の原木となるウバメガシの更新試験地を見学しました。コウヨウザンの試験地では、間伐した伐根から多数のぼう芽が発生していることを確認し、コウヨウザンの生産技術が確立されれば造林コストの大幅な削減に貢献することを学びました。また、ウバメガシの更新試験地では、原木不足に悩む製炭業者の要請に応えるため、老齢となり枯損が危惧されるウバメガシの更新方法について伐採幅を変えて稚樹やぼう芽の発生状況について調査する取り組みについて学びました。

２日目は、ドローンの体験操作の後、ドローンによる皆伐跡地の測量を行いました。皆伐跡地の写真撮影を行い、撮影データから更新面積の資料作成を行いました。ドローンの飛行は予め設定したルートで自動化されていることに驚いていました。

３日目は、立木販売箇所で架線集材を行っている事業者に協力いただき、集材作業を見学しました。初めて見る架線集材に、張り巡らされたワイヤーの複雑さ、多様な索張り方法、主索の太さや重さに驚いていました。

最終日は、保育間伐の素材生産事業地と、搬出した木材を販売してい

る木材市場を見学しました。素材生産事業では、高性能林業機械による伐採、搬出の様子を見学し、林業機械の枝払いや材長の調節が自動化されていることに興味を示していました。また、木材市場での「せり売り」を見学した際には、実際の木材の販売単価が思いのほか安いことに驚いたようで、実習担当者に「木材流通の利益構造はどうなっているのか」「なぜ伐採や搬出にかかる経費が価格に反映されないのか」など多くの質問がありました。木材の価格は材種・材質のほか、需要と供給の関係で価格が変動することなど説明する担当者が「改めて聞かれると自分たちの方が勉強になった」と漏らすほどでした。

　インターンシップに参加した学生からは、「ドローンを使用した皆伐跡地の測量やコウヨウザン・ウバメガシの試験地など新しい事業に取り組む柔軟さ・新規性を感じることができた」「木材の流通など大学で学ぶだけでは解らないことを実感できた」「インターンシップの経験を踏まえ、今後の研究・就職活動に励みたい」と感想が寄せられました。

　当署では、今後も国有林の管理経営、森林管理署の業務や役割への理解を深めるため、インターンシップの受け入れに努める考えです。

ウバメガシ更新試験地見学

コウヨウザン試験地見学

インターンシップで森林調査等を体験

〈香川森林管理事務所〉

　3月2日から6日にかけ、インターンシップ（就業体験実習）として宮崎大学大学院生1名を受け入れました。香川県出身のため、当所での受講を希望されたそうです。

　初日、当所の概要や業務内容を説明し、2日目以降は現場での実習で、最初に人工林において森林資源量を把握するため、標準地調査や新たな技術である森林三次元計測システム（OWL（アウル））を使った調査を体験しました。

　3日目は、高松市付近にある屋島、栗林公園付近及び飯野山において、里山国有林の維持管理や不法投棄の対策等について現地見学を行いました。

　4日目は、下刈、植栽及び間伐箇所を見学するとともに、ドローンの操作を体験しました。

　最終日は、ニホンジカ被害対策として実施している無線とモバイル通信を利用したわなシステムや治山及び林道事業実施箇所を見学しました。

　本人曰く体力には自信がないとのことでしたが、現地までの山歩き、森林調査等も元気よく積極的に行っていました。

　本人からは、栗林公園の近くや屋島にも国有林があることを知らなかった、ドローンやOWLは初めて使用したが簡単に扱うことができた、国有林では造林事業や治山・林道事業などいろんな業務をされており勉強になったとの感想がありました。

　香川所では、今回行ったインターンシップの経験を生かしながら、今後も積極的に受け入れていきたいと考えております。

ドローン操作中

コンパス測量中

アウル測定中

日吉（ひよし）中学校で森林環境教育（木工クラフト）を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

2月27日に愛媛県の鬼北町立日吉中学校全校生徒22名を対象に森林環境教育（木工クラフト学習）を行いました。

最初に木材の特徴を紹介しました。木材は古くから私たち日本人の生活になくてはならない存在で、優れた性質があり暮らしを快適にしてくれるすばらしいものであること、一方使いづらい点も持っており上手に工夫して性質を生かして使っていることなどを説明しました。続いて、日本で一番軽い桐と一番重たいイスノキ、世界で一番軽いバルサと一番重たいリグナムバイタについて水槽や上皿天秤ばかりを使って比較する実験を行いました。また、数十種類のいろいろな木材（集成材、CLT、合板、スギ、ヒノキ、マツ、シナノキ、コクタンなど）のサンプルも手に取って観察し、木材の種類や特長について学びました。

次はお楽しみの木工クラフト作りです。これは、ヒノキのおひな様飾りが描かれたキット（ヒノキのムク板を切り抜いたもの）にポスターカラーで自由に色を塗ったり、ビーズやシール等で飾りつけしてから、ヒノキの角材で作った台座に接着剤で貼り付けるというものです。各自、パーツを紙ヤスリで磨いたり、カラフルな着色や装飾をしておひな様の置物を作り上げました。元のキットは形も下絵も全く同じものでしたが、生徒の発想で変化が加わりユニークなおひな様が次々と出来上がりました。

当日は宇和島のケーブルテレビが取材に来て、真剣に作品づくりに取り組む様子を撮影してくれました。

最後に、生徒達から感想の発表があり、「木材についての実験で、質量のことと結びついて楽しかった」「木工クラフトでヤスリで磨いたり、ビーズをつけたりと様々なことができ、ヒノキのいい匂いがするおひな様作りができて面白かった」などの感想がありました。

この学習を通して、木の持つ手触りや温もりなど、素材としての木材の良さや作る楽しさを理解してもらえたものと思います。

クラフト製作の様子

局議室 一新

地域材を使用した木製の会議用テーブル14台と椅子45脚を新しく配置し、局議室が明るくなりました。

テーブルは高知県産ヒノキを、椅子は徳島県産ヒノキを使用しています。

四国森林管理局では、これからも庁舎の建築や改修、内装やオフィス家具など、地域の木材を積極的に利用して、木材のPRに努める考えです。

新任者略歴紹介

業務管理官

鈴木　正勝

- 昭和61年4月　林野庁業務部経営企画課採用
- 平成29年8月　中部森林管理局　計画保全部長
- 令和　2年4月　現職

総務企画部長

大竹　武司

- 昭和57年4月　前橋営林局総務部人事課採用
- 平成30年4月　林野庁林政部林政課課長補佐（人事第一班担当）
- 令和　2年4月　現職

森林整備部長

武田　義昭

- 平成　2年4月　林野庁指導部造林保全課採用
- 平成29年1月　大臣官房政策課調査官
- 令和　2年4月　現職

香川森林管理事務所長

竹内　千幸

- 昭和55年4月　高知営林局総務部人事課採用
- 平成31年4月　四国森林管理局森林整備部企画官（木材需給対策担当）
- 令和　2年4月　現職

四万十森林管理署長

前田　利雄

- 昭和56年4月　高知営林局総務部人事課採用
- 平成30年4月　関東森林管理局 千葉森林管理事務所長
- 令和　2年4月　現職

高知中部森林管理署長

吉良　崇夫

- 昭和55年4月　高知営林局総務部人事課採用
- 平成28年4月　四国森林管理局森林整備部企画官（間伐推進担当）
- 令和　2年4月　現職

安芸森林管理署長

高木　鉄哉

- 平成　4年4月　林野庁指導部基盤整備課採用
- 平成30年4月　北海道森林管理局 計画保全部調査官
- 令和　2年4月　現職